



④

喪祭祭議

総論喪期

奔大喪奔山陵附

諸侯及公卿大夫為天子服議

宗室童子為天子服制議

復

薦車馬明器及飾棺

沐浴

祖奠

含

遺奠

小斂

代宗睿文皇帝哀冊文

『文苑英華』卷八三六・哀冊文二・哀冊文下

大斂

挽歌

殯

葬儀合葬附

大斂奠

虞祭

設銘

附祭

懸重

帝王諡号議——大唐元陵諡冊文

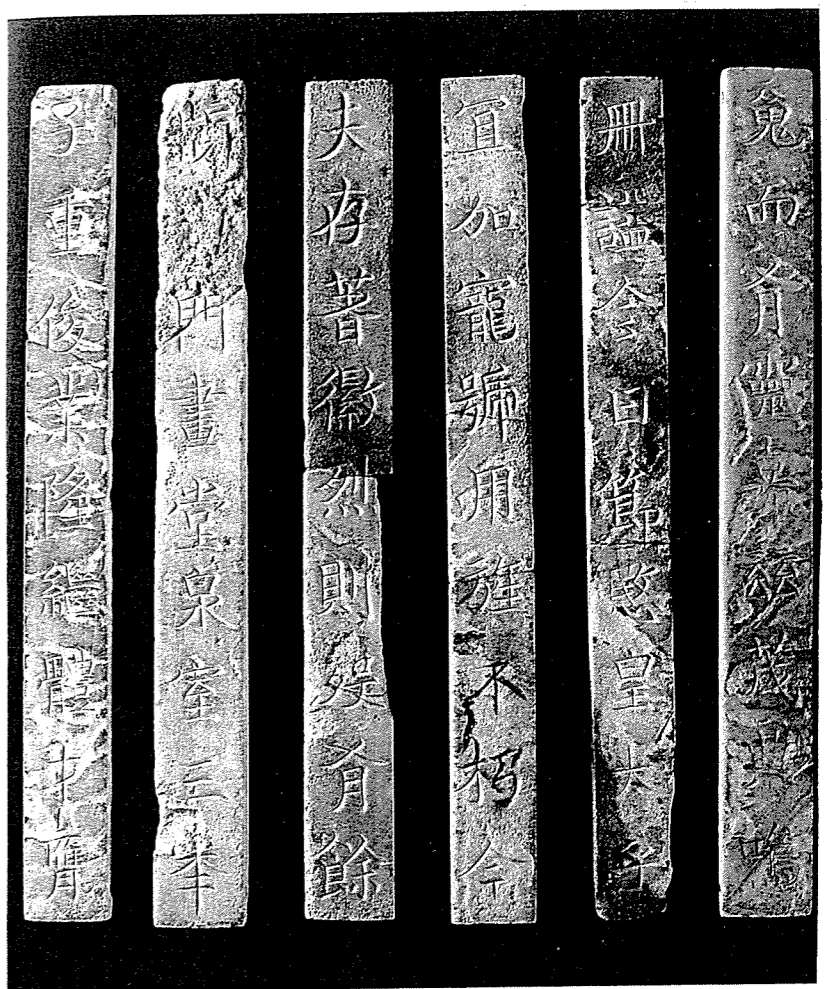
【現代語訳】

代宗睿文皇帝哀冊文

崔祐甫

大曆一四年歲次己未、夏五月二日、宝応元聖文武皇帝は大明宮蓬萊殿にて崩御し、太極宮に梓宮を遷した。二六日丙寅、太極殿の西階に殯した。有司は南郊に赴き、儀式に従つて尊諡を上り、睿文孝武皇帝と号した。その年一〇月丁酉朔の四日庚子、今まさに元陵に遷幸しようとしている、礼の通りである。東方には明けの明星が輝き、繁霜は今もまだ落ち、風は宮廷の木々に吹きすさび、号泣する声は梓宮を囲む幕に満ちあふれている。哀子嗣皇帝適(徳宗)は、縗服を襲て憂い、さめざめと泣き悲しみ、備物が生前と同様であるのに心を打たれ、代宗の明靈を大空に探し求めている。挽歌の早い節回しを聞いては、靈駕が今にも出発しようとするのを懼れ、玉璽を捧げてすすり泣き、龍輶を見ては(別離の悲しみを)忍びがたい。恭んで大孝(亡父、代宗)の終焉に生前の盛名を称揚しようと思ひ、担当官に命じ、その徳を輝かし表す。その詞に言う、

おおいなるかな我が皇統は、長くその祥(まわい)を發し、咎(とが)餘は舜を助け、徳を四方に種えた。老子は周を去り、道教を広めた。土徳の唐朝は天より命を受け、其の旗は黄色である。漢王朝の後、南北に国が分かれたが、天は王朝がいくつにも分かれていた状態を厭い、隋を滅ぼして唐を興した。唐の威光が嘩かないことがあるか、帝命が天命に和合しないことがあるか。草木が盛んに茂るように、唐朝は八代の間に盛んになった。盛んになったのは何故か。代宗は幼い頃より聰明にして、誕れてすぐに匍匐し、聖敬は日増しに進歩してやまない。かすかなものでも見通し、遠いものでも身につけ、よく父母につかえ兄弟に親しんで深い考えを持ち、その名声は万民に達した。天宝の末年、天には彗星が出現し、蛇は跳ね上がり犬は狂い、刺し噛みついた(凶兆が現れた)。玄宗は成都へ向かい、肅宗は北方に出た。君父(肅宗)は我(代宗)に命じ、ここに六師を統轄した。熊羆や蛮夷を駆り使い、逆徒が群がり集まると、その旗を割いた。一撃にて打ち砕き、あつという間に長安を席卷し、洛陽の争乱を静めた。天地の開かれたこと、万物はこれを見ており、玄宗は蜀より、中土(中国の中心、長安)に戻った。肅宗は岐山にて帝位に即き、代宗の孝は、千古に抜きん出ている。子(肅宗)は親(玄宗)を戴き、孫(代宗)はよく祖(玄宗)を敬い、皇太子位に登り、至礼・至賞・至樂の三法を皇帝にお尋ねになった。大いなる善を有する太子は、すぐれた後継者にふさわしく、文化を継ぎ皇緒を纂ぎ、道は上天にいたる。優れた知恵と徳は国中にわたり、衆人は啓蒙される、どうして桀(けつ)のように服従しない凶暴な者も徳化して忠誠を為すことが無いであろうか、どうして羿(ひ)のような不徳の君臣も燎(かぎり)の蓬に遇うが如きことが無いであろうか。刑罰は清廉にして政治は整い、遠近を懐柔し、王度は玉のように欠けるところなく、徳のある立派な言葉は海流のように広まる。四方の靈獸は皆な従い、三春の恵みしきりに至って、多くの祥瑞の集まるなか、代宗は皇帝位に就いた。ところが、華の封人が堯を祝い、聖人の長寿を祈ったにもかかわらず、どうしてこのように速く世を厭うのか、突然に中国を捨てられた。高い天も裂け、厚い地も傾き、民衆は声を上げて泣いて代宗を慕う。その悲しみの大きく痛手の深いことが、どうして我が君(代宗)に当たったのであろうか、ああ哀しいことだ。肅々とした正殿も、季節は炎夏より涼秋へと移り、漏刻の水滴が尽きるほど夏の日が永かったのが、燭華(ろうか)が凝るほど秋の夜は長く、階には苔が積もり、庭には草が枯れる頃となった、ああ哀しいことだ。埋葬までの七箇月に諸国の者は悉く至り、市野(いちの)盤(ばん)壇(だん)に、山に抛つて隧道を開いて陵を作った。代宗の梓宮は禁中を捨てて留らず、平原を指して次を出て、嘉徳門、承天門を開き、太廟の門に至って殿(だん)蹕(へい)を駐(とど)めると、私徳宗は孝心に順つて永く相離れることを悲しむ、ああ哀しいことだ。朱雀門を出て春明門を通り過ぎるに、車駕の奔るかのような速さを恨み、万国を傾けて九族を集め、吾が皇帝(代宗)の寿原に帰るのを送る。風は音を立てて吹きすさび籥(えう)の音は惨(あは)ましく、日は暗く郊野は日暮れのようにだ。壽陵に植えた栢は青々としており、岡を渡り僻(ひそ)を渡る。杳々(ようよう)と暗く厚い地に俯(うつ)み、鬱蒼(うよくさう)とした森の万靈を想い、女官や宦官の明器を用意し、その衣を捧げて下庭(げてい)(墓室・玄宮)にめぐらせる。備物が皆な並べられ、埋葬の時が来たことを嘆き、玄堂(墓室・玄宮)が永遠に保たれることを奉る、ああ哀しいことだ。代宗は僊(せん)馭(ぎよ)されてどこに行くのだろうか、定められた時期の虞祭を執り行うため、千官万騎をまとめ、長安城に返るにも、代宗の死をまだ信じられない。代宗の功は舜典より高く、その美は周詩に冠たるものである。万億年の先までも、照然とその詞は残る、ああ哀しいことだ。



⑤

⑤ きょうこうごうあいさく 恭皇后哀冊 2点 唐 天宝元年(742) 2000年 惠陵出土 陝西省考古研究院 1. 残存長13.7cm、幅3.0cm、厚さ1.0cm 2. 残存長23.5cm、幅3.0cm、厚さ1.0cm 1. 「獻皇帝且」(后8) 2. 「申將遷附於惠陵禮」(后12)

⑥ じょうこうていあいさく 讓皇帝哀冊 2点 唐 天宝元年(742) 2000年 惠陵出土 陝西省考古研究院 1. 長さ28.7cm、幅2.8cm、厚さ1.2cm 2. 長さ28.6cm、幅2.8cm、厚さ1.2cm 1. 「己十一月戊申朔廿四」(帝2) 2. 「外奄有於宋復遷於寧」(帝25)

⑦ せつびんたいししきく 節愍太子諡冊 6点 唐 景雲元年(710) 1995年 節愍太子陵出土 陝西省考古研究院 1. 「子重俊業隆繼休才解」(4) 2. 「崩山門面堂泉室三年」(23) 3. 「夫存著微烈則放有余」(27) 4. 「宜加寵勞用旌不朽今」(30) 5. 「肅諡爾曰節愍皇太子」(31) 6. 「魂附有靈嘉茲茂典鳴」(32) ( ) 内は冊番号

金子修一他  
大唐元陵儀注新釈  
汲古書院 二〇一三年

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館  
大唐皇帝陵 2010年

⑧ 後日本紀

孝謙天皇 天平勝宝四年三月一四月

新日本古史文学大系 14 一九九二年

夏四月乙酉、盧舍那大仏の像成りて、始めて開眼す。是の日、東大寺に  
行幸したまふ。天皇、親ら文武の百官を率ゐて、設齋大会したまふ。その  
儀、一ら元日に同じ。五位已上は礼服を着る。六位已下は当色。僧一万を  
請ふ。既にして雅楽寮と諸寺との種々の音楽、並に成く来り集る。復、王  
臣諸氏の五節・久米舞・楯伏・踏歌・袍袴等の歌舞有り。東西より声を発  
し、庭を分けて奏る。作すことの奇しく偉きこと、勝けて記すべからず。  
仏法東に傳りてより、齋会の儀、嘗て此の如く盛なるは有らず。是の夕、

⑬ 三國志魏書 烏丸鮮卑東夷傳倭人

其の死するや、棺有れども槨無し。土を封じて冢を作  
る。始し死したれば、喪を停むること十余日、「その」時  
に当たりては肉を食らわず、喪主は哭泣すれど、他人は  
就きて歌舞飲酒す。已に葬れば、家を挙りて水中に詣り  
て澡浴し、以つて練沐の如くす。  
倭人の葬式には、棺はあるが、槨はない。土  
を盛りあげて墓を作る。死んですぐに、「かり  
もがり」を十日か行い、その期間は肉食をせ  
ず、喪主は声をあげて泣く。その他の人はその  
場所において、歌い踊り酒を飲む。墓に葬つてか  
ら、家じゅうの者が水浴に出かけ、中国の喪あ  
けのみそぎのようにする。

藤堂明保・竹田晃  
影山輝國 記  
倭国伝  
学習研究社一九八五年

⑨ 東大寺要録 供養章第三 筒井英俊編 校訂 東大寺要録(全)

楯伏舞頭 外從五位上 文忠 守正 上 唐  
從五位下 土師宿禰 牛勝

國書刊行会 一九七一年  
初版 全國書房 一九四四年

(中略)

楯伏舞卅人 槍前忌寸廿八人  
土師宿禰廿二人

楯、原作猪、據同  
上改○卅、卅之誤  
字數○漢、此下恐

⑩ 蝦菽本傳、印  
本作蝦

令集解卷四 職員令

治部省雅樂寮

黑板勝美編 国史大系

令集解卷一 吉川弘文館

一九七二年

竹、菽本作笛○  
乃文、或尺八之  
誤、菽本乃作及  
擲、菽本作擲、印  
本作擲

取、謂免雜儀也。大屬尾張淨足說。今有寮舞曲等如左。久米舞。大伴彈琴。佐伯持刀。即斬蜘蛛。唯今琴  
取二人。舞人八人。大伴佐伯不別也。五節舞十六人。田舞師。舞人四人。倭舞師。舞人十人。五人土師  
宿禰等。五人文忠守等。右着甲并持刀。楯筑紫舞廿二人。諸縣師一人。舞人十人。舞人八人。著甲持刀。禁止  
二人。歌師四人。立歌二人。大歌笛師二人。兼知橫竹乃文。度羅羅舞師一人。歌師一人。婆理舞六人。二人持刀  
楯舞。四人持持立。久太舞廿二人。那禁女舞五人。三人舞人。二人花取。韓與楚奪女舞。女廿二人之中。五人著  
甲帶刀。右四舞。度羅之樂。唐合笙師一人。擲箏師一人。橫笛師一人。鼓師一人。歌師一人。方響師一人。簞樂  
師一人。尺八師一人。篳篥師一人。舞師一人。百濟篳篥師一人。橫笛師一人。歌。韓琴師一人。大。舞師一  
人。高麗舞師一人。散樂師一人。箏師一人。新羅舞師一人。琴師一人。伎樂師一人。以上隨時增減而已。 使  
部廿人。直丁二人。樂戶。

⑪ 葬送具條

令義解卷九 喪葬令

国史大系 令義解

一九六九年

編、京本此下有  
同、集解與此

凡親王一品。方相輜車。謂。方相者。蒙熊皮。黃金四目。玄衣。朱裳。執  
戈。揚楯。所以導輜車者也。輜車。輜車也。各一具。鼓一百面。大角五十口。  
小角一百口。幡四百竿。金鉦鑊鼓。謂。鉦者。似鈴。柄中上下通也。鑊者。如  
發喪三日。謂。發喪。猶舉哀也。先葬二日始舉哀。乃至葬日。以終。是後發喪三日也。下文云。發喪  
角卅口。小角八十口。幡三百五十竿。三品四品。鼓六十面。大角卅口。小角六十口。  
幡三百竿。其輜車鑊鼓楯鉦及發喪日。並准一品。諸臣一位及左右大臣。皆准二  
品。二位及大納言。准三品。唯除楯車。三位。輜一具。鼓卅面。大角廿口。小角卅口。  
幡二百竿。金鉦鑊鼓各一面。發喪一日。太政大臣。方相輜車各一具。鼓一百卅面。大  
角七十口。小角一百卅口。幡五百竿。金鉦鑊鼓各四面。楯九枚。發喪五日。以外葬具  
及遊部。謂。葬具者。帷帳之屬也。遊部者。  
若欲私脩。者聽。女亦准此。

⑫ 延喜式 卷才四十九 兵庫寮

二尺四寸。踐  
大嘗式。元會  
十二字

国史大系 延喜式 後篇

凡踐祚大嘗會新造神楯四枚。各長一丈二尺四寸。本闊四尺四寸五分。中間四尺。載八竿。各長一丈八尺。紀  
各長八尺。掃墨一斗三升六合。楯別三升八合。膠一斤十二兩。掃墨一升。酒六升八合。以二升和。商布四段四尺。裏料。  
二丈。糯米六升二合。着裏漆二合。燒塗。面金四枚。長各四尺。廣。料鐵卅九斤十二兩。和炭十二石。工十二人。手力十  
二人。六寸平釘六十四隻。鐵十六斤。和炭五石。工五人。手力五人。二寸平釘七百八十隻。料鐵  
廿四斤六兩。和炭十二石五斗。工十五人。手力十五人。載錄八隻。鐵廿六斤八兩。和炭十二石。工廿人。手力  
十二人。食料一人。日米二升。鹽二勺。海藻一把。醬滓二合。功錢。其數隨並申。官請受。